

# 日本百街道紀行

## 街道とまちづくり

第22回

## 北国街道と北国脇往還

# ひとが行き交い輝くまち 長浜へ

ながはま  
長浜市長(滋賀県)

ふじい ゆうじ  
藤井勇治



### 黒壁スクエアの誕生

滋賀県長浜市と云えば、平成元年にオープンした黒壁ガラス館を中核とした、黒壁スクエアが「まちづくり」の成功例としてよく語られる。外壁面の色から「黒壁銀行」と親しまれてきた百三十銀行長浜支店が、昭和の終わりに取り壊しの危機に陥った時、民間の有志が立ち上がり、第三セクター(地元民間企業8社と長浜市が出資)の株式会社黒壁が設立された。そして、銀行建物を活用した拠点施設として、ガ



黒壁ガラス館

ラスを製造・販売する黒壁ガラス館をオープンさせたのである。

その後、同社は周囲の伝統的町家を次々と改修、美術館・ガラスショップ・工房・ギャラリー・カフェ・レストランへと再生し、黒壁スクエアと呼ぶ商業・芸術空間を形成した。平成3年にはJRの新快速が長浜駅まで延伸したこともあって京阪神からの観光客が増え、江戸時代から明

治時代の風情が漂う和風建造物の中に、近代的なガラス芸術が息づくエリアとして、滋賀県随一の人気観光・産業スポットへと変貌を遂げたのだ。

### 街道とまち

黒壁ガラス館は、長浜城主だった秀吉が造った城下町である市街地の中、高札場跡である「札の辻」の北東角に建ち、その十字路は、江戸時代の「北国街道」と「たにくみ道」との交差点であることは意外と知られていない。この十字路の北西角には、「右 北国みち、左 京いせ道」と記された寛政8年(1796年)建立の道標が建つ。



木之本宿のたたずまい

「北国街道」は、現在の彦根市北部で中山道から分岐し、米原宿より長浜宿を経由して、本市の北部である木之本宿・中河内宿から越前・加賀方面に向かう。道標の文

字は、美濃方面から来てこの街道にぶつかり、右に行けば北国（越前・加賀）、左に行けば中山道を經由して京都や伊勢神宮に至るという意味になる。江戸中期以降、浜縮緬を中心とする繊維業の隆盛により、長浜宿に來訪する旅客が多くなることで繁栄し、街道としての整備が進んだ。

一方、美濃方面へと向かう街道は「たにくみ道」と称され、西国三十三所の巡礼者が、琵琶湖に浮かぶ第三十番の竹生島から、第三十三番の美濃国

（岐阜県）谷汲山華嚴寺へ参拝する場合に使った街道である。黒壁ガラス館の十字路から東へと延び、米原市春照で「北国脇往還」に合流、県境（かつての国境）を過ぎて美濃国の関ヶ原宿、さらに巡礼の終着点・谷汲山に至り、多くの巡礼者でにぎわった。

### 継承と発展

本市は、平成22年の市町合併により、琵琶



札の辻にて披露される長浜曳山祭の子ども歌舞伎

湖を凌駕する約680km<sup>2</sup>の面積となった。特に「北国街道」が貫く南北は約40kmとなり、長浜宿はもとより「北国街道」と「北国脇往還」が交わる宿場町としてにぎわった木之本宿もまた、本市の重要な街道まちづくり拠点となった。

木之本宿と関ヶ原宿を結ぶ「北国脇往還」は北陸方面からの大名行列が頻繁に利用し、松尾芭蕉も「奥の細道」の旅の最後でこの街道を通り、大垣に至ったと推定されている。木之本宿は木之本地蔵院

の門前町としても栄え、毎年8月下旬に開催される「木之本地蔵大縁日」には、10万人を超える参拝者でにぎわう。今も古い商家の町並みが良く保存され、黒壁スクエアと双壁を成す観光拠点として、人気を集めている。

交通の要衝として発展を遂げてきた長浜は、観音などの多くの文化財を有し、戦国時代には数多く

の武将が群雄割拠した地域である。平成28年11月には、豪華な山車と子ども歌舞伎で有名な長浜曳山祭がユネスコ無形文化遺産に登録された。今後も伝統文化や歴史的景観の保存継承に努め、国内だけでなく、世界が目にする国際的な観光都市としてさらに魅力を上させ、にぎわいのあるまちを目指していきたい。

## 北国街道と北国脇往還

### 一口メモ

## 京、大坂と北陸とを結んだにぎわいの道

琵琶湖の北東岸を北上し、余呉湖の北の柳ヶ瀬や栃ノ木峠を経て北ノ庄へと通じる北国街道は、かつて北陸と京阪神を結ぶ重要な街道であった。多くの旅人や商人、

武将らが頻繁に往来。長浜は往来を支える宿駅として、また湖上交通の要として栄えた。

今も、街道沿いには港町の風情を残す丹板塀や紅殻格子、虫籠窓の家々や土蔵のある老舗の商家、道中安全を願った常夜燈などが残されており、昔日の面影を色濃くとどめている。

北国脇往還は、北国街道の木之本宿から中山道の関ヶ原宿までの約35kmの街道。北陸と東海を結ぶ最短の道で、関ヶ原で伊勢街道と結ばれていた。



企画協力…全国街道交流会議「街道交流首長会」